EGGPLANT
ホームスクール通信　エッグプラント
Nファミリー
2011.7.1
No.84

古代日本と聖書の関係

六月中旬、福岡県井尻集会に行ってきました。早めに行って以前から行きたかった九州国立博物館を見学しました。さすが国立だけあって建物だけでも見る価値がある立派なものです。

初めて知ったことも多くありました。その一つは「沖の島」についてです。これは福岡市の北北西八十キロの玄界灘に浮かぶ周囲四キロの小さな島です。島は宗像大社の境内地となっており、古来より航海の安全を守る神として祀られ、一般人は立ち入りができません。宗像大社は、いわゆる「交通安全の神さま」として有名で全国各地にありますがその総本山が福岡市にあるのです。遣唐使が中国に行く途中に必ずよって安全を祈願したとも言われています。この島のことは日本書紀にも登場し、四世紀あたりから神事が行われてきたことが膨大な発掘品から伺えます。そのほとんどが国宝となっており、遠くペルシアからの物も含まれ、「海の正倉院」と呼ばれているそうです。（左下の写真が沖の島）

中国との交流が盛んに行われていたことから、早くから中国に入って来ていた聖書の思想（キリスト教の一派「景教」と呼ばれていました。）が日本に入ってきていたのではないかと考えられています。神道とユダヤ教の類似点が多い事からユダヤ人が日本に来ていたとか、仏教の外見をしているが実は聖書の教えと混合したものが日本に入ってきたと分析しているものもいます。まず光明皇后について見ていきましょう。

「奈良の大仏」の建設を命じた桓武天皇の妃・光明皇后は景教のペルシア人宣教師であった李密医と出会います。彼は外科医でもあり、皇后の子どもの病気の治療に関わりました。子どもが癒され景教に大きな影響を受けたのか、その後、皇后は夫の天皇から許可をもらい慈善事業を進めたのです。公設の救護施設「悲田院」を奈良に作り、また無料で病人に薬を与える「施薬院」、無料で病人を世話する「療病院」などを作ったのです。一般的には光明皇后は仏教を篤く信じていたとされますが、当時仏教には病人をあわれむという発想はありませんでした。修行をして悟りを開くという自己修練の教えだったのです。しかし、景教は「慈善活動」を活発に行っていました。西方から伝えられた景教はそれによって多くの人々に感化をもたらしていたのです。

また、李密医と一緒に日本に来た皇甫という人は宗教音楽の専門家でした。彼は日本の雅楽にも影響を与えました。有名な雅楽「越天楽」は「ペルシアから伝わった景教の音楽」と言われています。（日本雅楽会会長押田久一談）また、福岡県の民謡「黒田節」は越天楽の編曲されたものであるとのことです。（参考文献「隠された十字架の国」ケン・ジョセフ著）

古代歴史のロマンにただ浸るために書いたのではありません。日本の歴史のことでも不明な点は多々あり、学校で習ったことが必ずしも真理とは限らないのです。（実際、私が学生の時に習った縄文・弥生時代のことは大きく変わっています。）そして、今回取り上げた時代の六百年前に聖書は完成していたのです。はるかに昔のことながら豊富な文献に裏付けられて聖書の真実はいよいよ明らかになっています。そして聖書の観点で各国の歴史を見るならば意外な事実が浮き彫りにされてくるのです。

「神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。…私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。」

（使徒十七章二十六～二十九節）

創造主なる神は、さまざまな方法を通して私たちに語りかけているように思うのです。日本の歴史を通じても…

被災地ボランティア　H

六月三十日の午後、七人の集会のメンバーとともに宮城に向けて出発しました。東北関東大震災の被災地のボランティアとして行く為です。

次の日の早朝、サマリタンズ・パースのベースキャンプに到着しました。到着してすぐに朝食を取り、八時前に作業場である石巻に向かいました。街の様子は津波の跡がそれ程残っておらず、道路もきれいに整備され、店なども営業しているところもたくさんありました。しかし、海に近くなるにつれて、まだまだ手付かずの場所も見えてきました。川の中に家ごと沈んでいたり、田んぼの中に津波で流された車があったり、今にも倒れそうな家もありました。

一時間くらい車で走り、石巻の海岸のすぐ近くにあるSさん宅に着きました。今日の作業はこの家のヘドロ出しです。この家の周りには三百件もの家があったそうですが、津波により今は四件しかありませんでした。家のなかはヘドロだらけで、人が住んでいたものとは思えませんでした。休憩もはさみながら、四時前まで働きました。次の日も同じ場所での仕事です。ヘドロ出しの続き、また家の中を殺菌し、高圧洗浄機を使い掃除をしました。

私が今回のボランティアでやった事はほんのわずかなことです。しかし、少しでもお手伝いする事ができたことをうれしく思います。被災された方、家族をなくされた方の気持ちを私は知ることはできません。今、悲しみのなかにおられる方々のことを考えると、何とも言えない気持ちになりますが、だからこそ神様の愛を知ってほしいと、心から思っています。また機会があれば、行きたいです。

右が作業をした家です。中はほとんど空で、床下の泥を出していきました。

こんなことしました！　行事報告

六月

二日　合同公文教室「親と子のコミュニケーション学び①」
十一日　Jクラブ　「お菓子の家を作ろう」
十五～十六日　ボランティア（被災地の写真洗い）
二十一日　塗り絵・工作教室（文字のデザインをしよう）
二十三日　ボランティア（被災地の写真洗い）
二十九日　T兄来訪
三十～七月三日　被災地ボランティア（H）

Jクラブ・お菓子の家　R

六月のJクラブでお菓子の家を作りました。土台は牛乳パックでした。牛乳パックのてっぺんだけを使いました。壁はウエハースでした。色々なお菓子を壁に付けました。お菓子を壁につけるために先生たちが、お米をつぶして、砂糖を少し入れてお米ののりを作ってくれました。すごくいいアイデアだと思いました。

私の好きなお菓子をいっぱい家に付けました。マシュマロ・マーブルチョコ・クッキーなどを付けました。えんとつの煙をマシュマロにしました。

持って帰るときはくずれないようにラップで包みました。家でそのまま置いていると湿気るので、大きいお鍋をかぶせていました。

早く食べたかったけれど、みんなに見せたかったので待っていました。夜に家族みんなで一緒に食べました。食べるのがすごくもったいなく感じました。ヘンゼルとグレーテルの童話を思い出しました。

次はもっと大きなお菓子の家を作りたいです。今までのJクラブの中で一番楽しい企画でした。

編集後記

今月は堺と東住吉の働きでコル・シャロームも大忙し。東住吉では、T兄のメッセージの前に、ヘブライ語の曲「黄金のエルサレム」黒人霊歌「深い河を越えて」「馬車を降りてこい」などの新曲を歌いました。新しい曲を練習するのは大変ですが、仕上がったときの嬉しさはたまりません。